

■ 全体講評

今回の公開模試における午後Ⅰ、午後Ⅱ試験の採点結果だけから判断すると、技術レベルの高い一部の受験者を除き、全体的にはまだまだ準備不足という印象を受けました。ちなみに、問題ごとの平均点は午後Ⅰ(50点満点)の問1が19.6点、問2が11.6点、問3が16.8点、午後Ⅰ全体の平均点は33.3点でした。また、午後Ⅱ(100点満点)では、問1が29.1点、問2が25.9点で、問1が問2よりも少し高くなりました。なお、問題ごとの選択率は、午後Ⅰ試験の問1が45.9%、問2が27.2%、問3が26.9%で、問1の選択率が高かったことが特徴です。午後Ⅱ試験では、問1の68.2%に対し、問2は31.8%でした。問2は、IPv6関連の問題ですから選択者が少ないのは当然ですが、以前に比べると、選択者の比率はかなり高くなっているといえます。

今回の午後Ⅰ、午後Ⅱ試験の問題は、そのほとんどが個別の技術内容に特化したものですから、特定分野の技術知識に詳しくなければ、得点することが難しかったと思います。このため、意外な結果に終わったという受験者も多いのではないのでしょうか。また、午後Ⅰ、午後Ⅱ試験とも、バランスよく得点できたという受験者も少なかったと思います。いずれにしても10月21日の本試験で合格するには、午後Ⅰ、午後Ⅱ試験とも合格基準点の60点をクリアすることが必要です。このことを念頭に置き、これから準備をしていく必要があります。

次に、重要なことは記述式の問題に対する取組み方です。記述式の問題の多くは、下線に関するものが出題されます。すると、解答を作成する際、どうしても下線部だけに注目しがちです。しかし、下線部だけに注目してしまうと、その前後にある条件などを見落としてしまい、答案としては的を射たものとはなりません。今回の模試でも、こうした内容の答案が数多く見られ、点数を失っていました。設問で問われていることを確認した上で、下線部に関する全体の関係をよく把握し、解答を作成するようにしましょう。また、本番の試験で合格基準点をクリアするには、キーワードをしっかりと押さえた答案を作成することが重要なポイントになってきます。

今回の公開模試における可否の判定レベルは、全体的に正答率が低かったことなどから厳しい判定になっていると思われます。この判定に固執することなく、10月の試験では、日ごろの学習成果を十分に発揮するようにしてください。そして、記述式問題の解答作成に当たっては、既に述べたように、設問で何が問われているか

を必ず確認するほか、不要な修飾語はできるだけ削除し、ポイントになる内容を分かりやすく記述することです。今回の公開模試でも、設問で問われていること以外の内容を答えているものや、無駄な修飾語が多く、肝心のことが記入できていない答案が数多く見られました。これらの点は改善していく必要があります。

ネットワークスペシャリスト試験は、今回で4回目の試験となります。昨年の本試験の午後Ⅰ、午後Ⅱの難易度などを評価すると、両方とも標準レベルの問題であったと思われます。ちなみに、昨年の午後Ⅰ試験の合格率は53.4%、午後Ⅱ試験は52.1%でした。また、午後Ⅱ試験では、やさしい問題を選択した方が合格しやすいと考えがちです。しかし、試験センターでは「試験結果に問題の難易差が認められた場合には、基準点の変更を行うことがあります」としています。このため、午後Ⅱ試験においては、問1と問2の難易差をあまり気にせず、一度選択すると決めた問題を最後までやり遂げることが必要です。その半面、午後Ⅰ試験は、3問のうち、2問の選択ですから、午後Ⅱ試験のように基準点の変更が行われることはないと考えられます。なお、記述式の問題では、採点基準などによって10~20点の違いが出てきます。試験センターの発表する解答例に照らし合わせて不合格と判断しても、結果的には合格するケースもあります。また、採点者が答案内容をどのように評価するかによっても大きく異なってきます。更に、全体的な正答率などを考慮しながら、少し甘めに採点することも考えられますので、論理的にすっきりした内容の答案を作成しておくようにするとよいでしょう。

試験当日は、集中力、精神力、体力の勝負になります。午後Ⅱ試験の最後まで、あきらめずに必ず合格するという強い意志をもって臨むようにしましょう。

<午後Ⅰ>

問1 電子メールシステムの移行

【採点基準】

【設問1】

a, bは、解答例どおりに対し各2点。

【設問2】

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し4点。その他は、基本的に0点。

【設問3】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。Aレコードの変更を指摘したものなど

は 3 点。その他は 0 点。

(2) c ~ g は、解答例どおりに対し各 2 点。

(3) 項番は、解答例どおりに対し 2 点。理由は、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

【設問4】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

(2) メッセージ ID が重複している旨のキーワードが指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

【講評】

問 1 の選択者数の比率は 45.9%であり、午後 I の 3 問の中では最も高い選択率でした。また、平均正答率は 39.3% (平均点では 19.6 点) と、午後 I の中では高くなりましたが、期待どおりではありませんでした。

設問 2 は、複合機が移行要件を満たしていない理由を答えるものでしたが、正答率は、かなり低いものでした。この設問は、[メールシステムの移行方法]に記載されている移行要件の(1)~(6)の中から、該当するものを指摘するものですが、大多数の答えは、「複合機の宛先ポート番号は 25 番固定で変更できない」旨を答えていました。25 番固定なので、465 番を使用できないことは分かりますが、そのために M サービスの中継専用として外部メールサーバを使うようにしたこと、及び移行要件の中から該当するものを結び付けて解答を導くようにしてほしかったと思います。

設問 3 (1)は、まずまずの正答率でしたが、(2)、(3)はかなり低かったと思います。特に、(2)は、メールの移行期間中におけるアクセス制御ルールという条件を見落としているようなものが、かなり見受けられました。あくまでも問題の条件に忠実に従って考察していくことが大切です。

設問 4 では、(2)の正答率が高かったようです。しかし、(3)は、「メールの送信時に、通常のメールとメーリングリストのメッセージ ID を変える」旨などを指摘したのも見られました。この設問では、メーリングリストの処理について問われていますので、メーリングリストから個別宛のメールに展開する際の処理について述べる必要があります。採点者は、答案用紙に記述された内容を見て判断しますので、記述式の問題では、できるだけ主語と述語の関係を明確にしながら、分かりやすい文章で解答を作成していくことが重要になります。

問2 ホスティングサービスの提供

【採点基準】

【設問1】

(1) アは、解答例どおりに対し 4 点

(2) L3SW に設定すべきものは、解答例どおりに対し 3 点。理由は、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

(3) 「顧客ごとに VLAN を分ける」旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。その他は、基本的に 0 点。

【設問2】

(1) a ~ f は、解答例どおりに対し各 2 点

(2) 通知する情報は、「NAPT 変換前の IP アドレス」が適切に指摘されているものに対し 3 点。理由は、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

【設問3】

(1) g は、解答例どおりに対し 2 点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。その他は、基本的に 0 点。

(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

【講評】

問 2 の選択者数の比率は 27.2%であり、問 3 とほぼ同様でした。しかし、平均正答率は 23.2% (平均点では 11.6 点)にとどまり、午後 I の 3 問の中では、最も低い結果でした。

設問 1 は、全体的に正答率が低かったようです。(1)は、問題の記述内容を基にしながら、宛先をどのようにアドレス変換すればよいかを考えれば、正解を導くことができたと思います。(2)は、レイヤ 3 におけるアクセス制御に関するものですから、少なくともパケットのフィルタリングを思い付いてほしかったと思います。(3)は、顧客ごとに VLAN を定義すればよいので、正答率は良かったと思います。なお、(2)で VLAN を指摘している場合には、基本的に(3)は解答できなくなります。

設問 2 は、IPsec や NAT 越えに関するもので、最近の本試験では、あまり出題されていません。このため、準備不足であったことは否めませんが、10 月の本試験では、これまでほとんど出題されなかったような技術でも、ときどき出題されることがあります。余力がある限り、できるだけ幅広い技術知識を身に付けておくといでしょう。

設問 3 (1)の WAF (Web Application Firewall) も正答率が低かったようです。(2)は、下線③に含まれるタイムスタンプに着目した答案が多かったようですが、もう少し全体の記述内容に着目し、ファイアウォールで顧客

PCのIPアドレスを、一つの仮想IPアドレスに変換していることに気付いてほしかった問題です。特に、下線部分に関する記述式の問題は、下線の前後に記述されている文章、あるいは全体的な記述内容から考察することが要求されます。本番の試験では、もう少し全体の関係を正しく把握しながら解答を作成していくようにしましょう。

問3 クラウドコンピューティングの導入

【採点基準】

【設問1】

- (1) 解答例どおりに対し2点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。「NIC-Aの優先度が高い」旨だけを指摘したものは3点。その他は0点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。

【設問2】

- (1) a～cは、解答例どおりに対し各2点。
- (2) d, eは、解答例どおりに対し各2点。

【設問3】

- (1) 「アクセスログが消滅する」旨が指摘されているものに対し4点。その他は、基本的に0点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し4点。その他は、基本的に0点。

【設問4】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。

【講評】

問3の選択者数の比率は26.9%で、午後Iの3問の中では最も低いものでしたが、問2とほぼ同じ数値です。平均正答率は33.6%（平均点では16.8点）でした。クラウドという新しい観点からの出題でしたから、ほぼ想定通りの結果ともいえます。

設問1は、仮想化技術に関する問題でしたから、もっと正答率を高めてほしいと思います。また、Webサーバは、ルータ機能をもつことはありませんので、Webサーバで接続されているセグメントは、Webサーバによって分割されます。こうした基本的な事項は、一つ一つ積み重ねて応用が効くようにしておきましょう。

設問3(1)では、「サーバが縮退すると、ディスクイメージも含め削除される」ように、問題文の記述をそのま

ま指摘した答案もありました。一般に、記述内容をそのまま書き写しても、それが正解になることは少ないので、ディスクイメージに書き込まれたデータとしては何があるかを、現在取得しているデータと見比べて解答を考えていくことが必要です。

設問3(2)や設問4(2)は、比較的問題文の内容を考慮しながら解答が作成されていたと思われます。しかし、一部「バースト的」という意味が理解されていないような答案も見受けられ、点数を失っていました。ネットワークでは、一時的にトラフィックが急増することなどをバースト的というので、理解しておきましょう。

<午後II>

問1 ネットワークの再構築

【採点基準】

【設問1】

- (1) a, bは、解答例どおりに対し各3点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。内容が今一步のものは4点。その他は0点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。その他は、基本的に0点。

【設問2】

- (1) cは、解答例どおりに対し2点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。その他は、基本的に0点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。その他は、基本的に0点。
- (4) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。
- (5) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。その他は、基本的に0点。

【設問3】

- (1) d～iは、解答例どおりに対し各3点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。

【設問4】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。その他は、基本的に0点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。その他は、基本的に0点。

【講評】

午後II問1の平均正答率は29.1%、また、選択者数の比率は68.2%でした。問2がIPv6関連の問題でした

から、問 1 を選択せざるを得なかった受験者も多かったと考えられます。

設問 1 (2)は、図 2 を見ると、物理スイッチと物理サーバ A を接続するリンクに VLAN 20 が設定されているので、VLAN 20 を物理サーバ B 側のリンクに移動させればよいことが分かります。こうした問題では、VLAN の設定内容をできるだけ具体的に記述するようにしましょう。(3)では、VLAN 間を不要なパケットが流れる旨の答案もありましたが、VLAN を定義すれば、レイヤ 2 のレベルで異なる VLAN 間でパケットが流れることはありません。このため、異なる VLAN にある物理スイッチが VSI マネージャと通信できるようにするには、VSI マネージャに管理 VLAN (VLAN 1) を割り当てて全ての物理スイッチと通信させるようにする必要があります。これが、設問 2 (5)で問われていることですが、基本的な内容をしっかり押さえて、そこから論理的に考えていくことが必要です。問題を表面的に捉えるだけでは、なかなか正解を得ることはできません。

設問 2 は、全体的に正答率が低かったようです。仮想サーバを移行させると、仮想 NIC の接続位置が変わります (仮想 IP アドレスと仮想 MAC アドレスは、そのまま引き継がれるので、これらに関する変更通知は必要ありません)。すると、移行になった仮想 NIC の接続ポートの情報を物理スイッチに通知しなければ、物理スイッチは、移行前の仮想 NIC に対してパケットを送信し続けるので、通信できない事態に陥ってしまいます。こうした内容も、把握すべき基本事項の一つです。

設問 3 の正答率は、まずまずだったと思います。しかし、(2)は、送信元と宛先の MAC アドレスがどのように書き換えられるかを問いましたが、片方の変換だけを指摘したのも見られました。確実に得点できる設問では、失点しないことが重要です。

設問 4 (1)の正答率は比較的良かったと思います。(2)の VRRP の設定変更では、ルータ自体が故障した際には、VRRP 広告が送信されなくなりますが、一部のインタフェースで故障が発生した場合は、その VRRP グループのプライオリティ値を低くした VRRP 広告を送信して、バックアップルータに切り替えるようにします。

問2 IPv4 と IPv6 の共存環境

【採点基準】

【設問1】

a ~ j は、解答例どおりに対し各 2 点。

【設問2】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているもの

に対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

【設問3】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。
- (4) 「DNS サーバの IPv6 アドレス」が指摘されているものに対し 4 点。その他は、基本的に 0 点。

【設問4】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

【設問5】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

【講評】

午後Ⅱ問 2 の平均正答率は 25.9%、また、選択者数の比率は 31.8%でした。正答率では、問 1 に比べると少し下回る結果となりましたが、記述式の問題は、問 1 も問 2 もほぼ同程度で、かなり低かったようです。IPv6 の問題は、IPv6 関連の知識によって正解できるかどうかが決まることが多いので、あまり知識を有していない場合には、選択対象から外すことも必要でしょう。

例えば、設問 2 (1)は、言われてみればプライベート IP アドレスが重複することが分かります。しかし、問題を目にして自分自身の力で解答を導いていこうとしても、何が問題なのかが分からないことがあります。表面的に問題を捉えるのではなく、日ごろ培った技術知識を基に冷静に考えてみるようにすることも必要でしょう。設問の中には、基本的なことを問うものが含まれているので、こうした設問には失点しないことが必要です。

いずれにしても、午後Ⅱ試験では、問題の記述内容を理解し、設問で問われていることに的確に対応していくことが必要です。そのためには、基本的な技術知識をしっかり身に付けた上で本試験に臨むことが必要です。そして、問題の条件などを十分に考慮しながら解答を作成していくように努めましょう。

以上